

5分で読める

ちょっと役に立つ

『住宅火災警報器の効果』

Q & A

住宅用火災警報器の設置率を消防庁がまとめました。
平成26年6月1日時点での調査結果は、

設置率 79.6%

条例適合率 66.9%

※設置率とは、市町村の火災予防条例において設置が義務付けられている住宅の部分のうち、一箇所以上設置されている世帯の全世帯に占める割合。

※条例適合率とは、市町村の火災予防条例において設置が義務付けられている住宅の部分全てに設置されている世帯の全世帯に占める割合。

住宅用火災警報器は防火に効果的です。この小冊子ではその効果データと実例を掲載しました。まだ住宅用火災警報器を設置していない方は、これを読み、住宅用火災警報器を設置しましょう。

平成27年3月

住宅火災警報器設置防災事例と被害比較データ



●住宅火災警報器の設置防災事例はどんな種類がありますか？



火災警報器を設置していたので

1. 火災に早く気付いた。
2. 隣人・通行人等が警報音に気付いた。
3. 就寝中の居住者が警報音で目覚めた。
4. 高齢者が助かった。
5. 放火を防げた。
6. 連動型住宅用火災警報器の事例
7. その他の事例(警備会社連携)

以上の具体的事例を4頁以降に掲載しました。



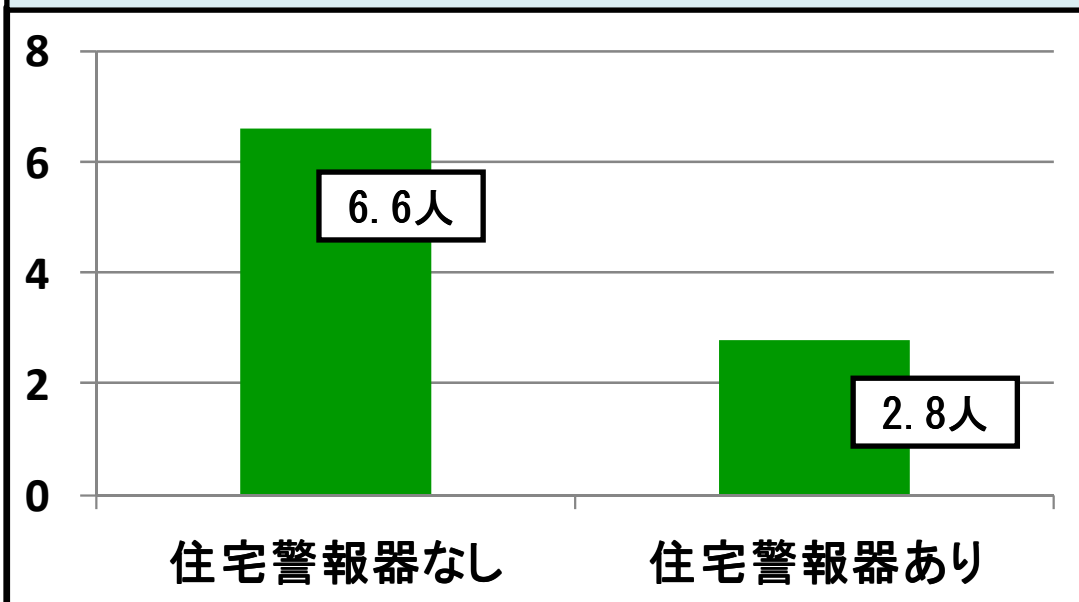
●住宅火災警報器を設置して被害はどのくらい減ったのですか？



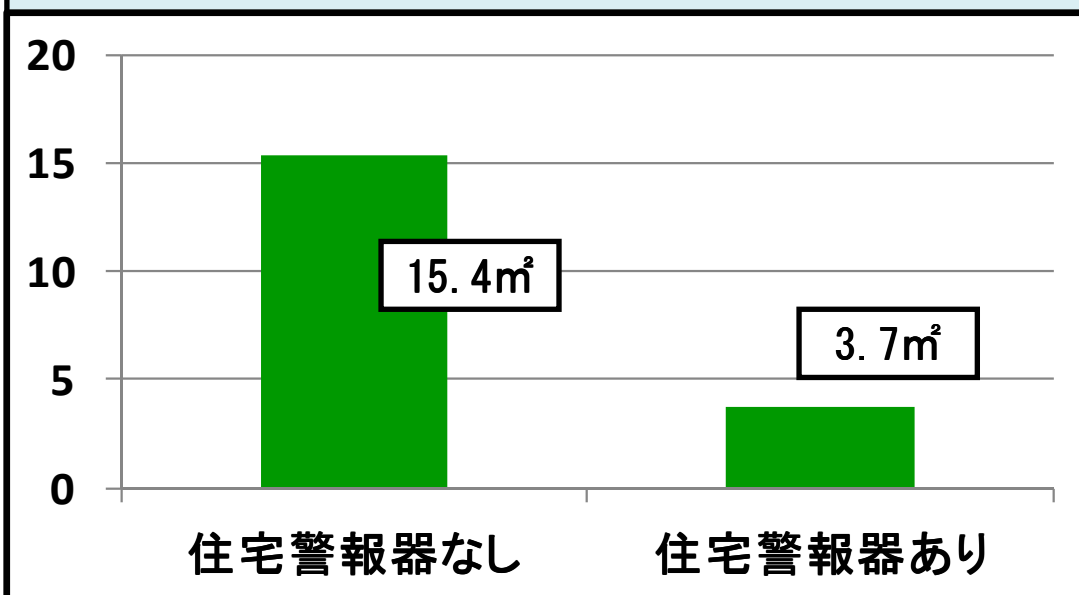
ちょっと古いデータですが、平成21年住宅火災のうち住宅警報器が設置されていた火災と設置されていなかった火災を死者数、焼損面積、損害額で比較してみました。次頁にそのグラフを記しました。

住宅火災警報器設置火災被害比較データ

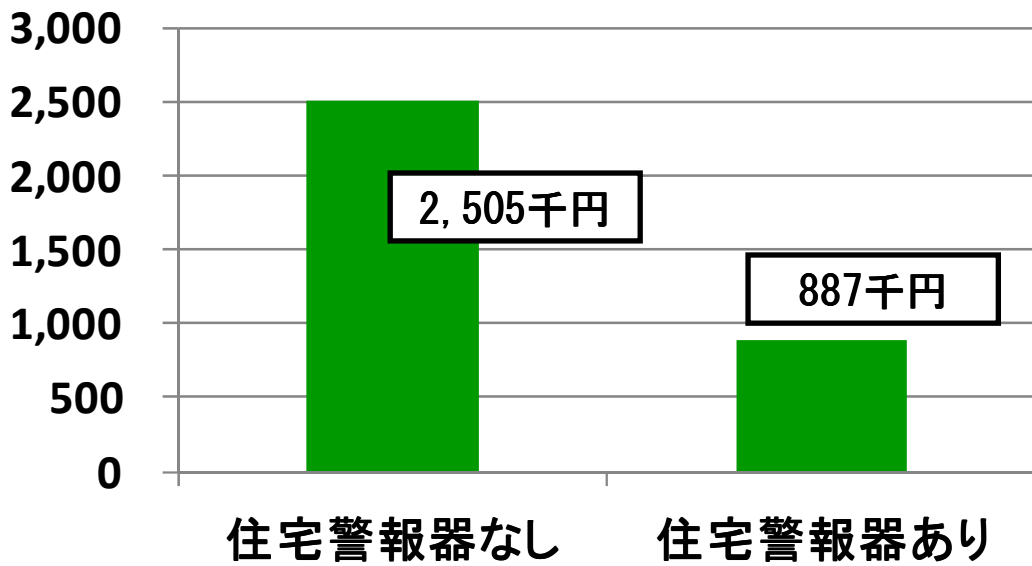
火災100件あたりの死者数比較



火災1件あたりの焼損床面積比較



火災1件あたりの損害比較



住宅火災警報器設置防災事例

火災警報器を設置していたので

1. 火災に早く気付いた。

女性が18時30分ごろから夕食の調理をはじめ、てんぷら油の入った鍋を火にかけて、18時35分ごろに来客があり、玄関で対応中に台所設置の住警器が作動し異常に気がついた。鍋を確認すると白煙が噴出しており、やがて炎が上がり始めた。家族が寝室より布団と毛布を持ってきて鍋を覆い窒息消火を試み消火した。

子供が部屋でテレビを見ていたところ、台所に設置の住警器が発報した。台所へ行くとガスレンジから火が出ており、水道水で消火を試みたが、消火しきれず119番通報した。

火災警報器を設置していたので

2. 隣人・通行人等が警報音に気付いた。

当事者の男性が飲酒後に帰宅し、味噌汁鍋をガステーブルに掛け、そのまま1階居間で寝てしまい鍋を焦がしたため、1階寝室に設置してあった住警器（煙式）が発報した。隣人の男性2名が住警器の警報音で駆け付け、ガスを切り、当事者を起こし早期の119番通報により火災に至らなかった。

新聞配達員が就業中、共同住宅1階付近にて住警器の鳴動音に気づき、1階102号室の出入りロドアを叩いたところ、居室内より居住者が避難し、新聞配達員が消防へ通報した。

火災警報器を設置していたので

3. 就寝中の居住者が警報音で目覚めた。

2階寝室で就寝していた男性が、1階和室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、1階居間で蓄熱式電気暖房器の後方から煙が出ているのを発見した。119番通報を行い、家族3人とともに屋外に避難した。

一人暮らしの女性が、電気こんろでフライパンに火をかけたまま居室で寝てしまったため、フライパンの中身が焦げ、発煙したもの。居室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、こんろのスイッチを切った。火災には至らずに済んだ。

火災警報器を設置していたので

4. 高齢者が助かった。

80代の妻が、ガスこんろで鍋に火をかけたまま寝てしまったため、空焚きとなり、発煙したもの。夫が、寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、ガスこんろの火を消し、水道水により鍋を冷却、窓と玄関の扉を開け、排煙した。

70代の一人暮らしの女性が、天ぷら鍋で揚げ物をしていて火を消し忘れてしまったため、出火したもの。女性が、居間でテレビを見ていたところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、座布団を天ぷら鍋に被せて消火した。

火災警報器を設置していたので

5. 放火を防げた。

放火の疑いにより出火したもの。居住者が就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、玄関ドアの新聞受けに挟んであった新聞が燃えているのを発見した。風呂の水を掛け消火した。

深夜、自宅玄関付近を放火されたもの。居住者が1階廊下に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火した。

放火の疑いにより出火したもの。居住者2名が、1階居間でテレビを見ている時、何かが燃える臭いと階段及び居間に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、住宅に隣接している敷地内駐車スペースに駐車していた車両の車内から炎と煙が出ているのを発見した。水道水で消火し、通行人が119番通報を行った。

6. 連動型住宅用火災警報器(※)で早期防災の事例

居住者が、台所のガスコンロで魚を焼いている最中に、その場を離れてしまったため、発煙したもの。魚焼きグリルから出た大量の煙に連動型住宅用火災警報器が作動して、別の部屋にいた居住者が早期に気づくことができた。火災には至らなかった。

70代の一人暮らしの女性が、ガスコンロで鍋に火をかけたままその場を離れてしまったため、内容物が焦げ、発煙したもの。台所に設置していた住宅用火災警報器が作動した。この住宅用火災警報器は、ホームセキュリティサービスに加入していたため、警備会社に通報され、警備会社から消防署に通報された。火災にならずに済んだ。

7. その他の事例(警備会社連携)

居住者が、IHこんろで調理中にスイッチを入れたままその場を離れてしまったため、鍋が空焚きとなり、出火したもの。警備会社が設置していた住宅用火災警報器が作動し、警備会社から 119 番通報があった。警報音に気付いた居住者が IH こんろのスイッチを切った。火災には至らなかった。

こんろで鍋を火にかけていることを忘れて外出し、鍋が焦げて発煙したもの。台所に設置していた警備会社連動の住宅用火災警報器が作動し、警備会社から消防に通報があった。

※連動型住宅用火災警報器とは：複数の警報器を相互に配線して、いずれかの警報器が感知したときに、全ての警報器が鳴動するタイプの警報器。

警報器間の配線が必要になるが、警報器が設置された各部屋に一斉に知らせるため、離れた部屋の火災がより早期に発見できます。